

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

平成 27 年 6 月 26 日	
所属部局・職	動物学教室 環境応答遺伝子科学研究室・修士課程 1 回生
氏名	小孫一浩

1. 派遣国・場所 (〇〇国、〇〇地域)
鹿児島県、屋久島
2. 研究課題名 (〇〇の調査、および〇〇での実験)
屋久島実習：ヤクザルの昆虫食、主に <i>Camponotus</i> 属 (オオアリ) についての調査
3. 派遣期間 (本邦出発から帰国まで)
平成 27 年 5 月 23 日 ~ 平成 27 年 5 月 29 日 (7 日間)
4. 主な受入機関及び受入研究者 (〇〇大学〇〇研究所、〇〇博士/〇〇動物園、キュレーター、〇〇氏)
京都大学 PWS ハウス屋久島
5. 所期の目的の遂行状況及び成果 (研究内容、調査等実施の状況とその成果：長さ自由)
写真 (必ず 1 枚以上挿入すること。広報資料のため公開可のもの) の説明は、個々の写真の直下に入れること。 別途、英語の報告書を作成すること。これは簡約版で短くてけっこうです。

今回の実習では、屋久島に住むニホンザルの亜種、ヤクザル *Macaca fuscata yakui* が食料とする昆虫の調査をおこなった。昨年までの屋久島実習とつづくゲノム実習で、屋久島で採集した昆虫の DNA 解析結果と、ヤクザルの糞のサンプルの DNA 解析結果の比較がおこなわれた。今回の屋久島実習では、ヤクザルが食するとされている *Camponotus* 属の 2 種、*Camponotus nawaii* (ナワヨツボシオオアリ) と *Camponotus bishamon* (ホソウメマツオオアリ) の採集を主としておこなったほか、昨年までの DNA データベースに含まれていない昆虫の採集もおこなった。

調査対象のアリは枯れ枝に生息しているため、照葉樹林に落ちている枯れ枝を 1 本ずつ折っていき、アリの巣を見つけたら種を同定し採集するという方法を取り、地理的・気候的要因による 2 種の分布の変化を比較した。得られたサンプルはゲノム実習での DNA 解析に用い、形態学と遺伝学の両側面から 2 種の関係を考察した。またその他の昆虫に関しては、昨年と採集方法や開花している樹種が異なったことで、特にカミキリムシ科において新たに採集できた種が多かった。これらの昆虫のサンプルも、つづくゲノム実習で DNA 解析をおこない、昨年までの昆虫の DNA データベースに追加した。

屋久島実習を通して、自分の研究分野では味わえないフィールドワークの面白さを経験すると同時に、これからの自分の研究の糧となる思考法を学ぶこともできた。また、日本語がまったくわからない外国人招聘学生らとともに、寝食を共にしながら調査・研究をおこなったことで、1 週間という短期間でも異文化コミュニケーション能力の向上を感じることができた。

今回の調査とゲノム実習により、*Camponotus* 属において興味深い結果が出たので、次回の屋久島実習も含め、さらなる研究成果が楽しみである。



Camponotus bishamon



Camponotus nawaii



アリの採集の様子

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)



昆虫採集の様子 (Sweeping 法)



ホシベニカミキリ



Insect Team

6. その他 (特記事項など)

今回はサルのアリ食についての研究の経験がある清野先生をはじめ、阿形先生や岡本先生のサポートのもと、日本人学生2人、ブラジル人招聘学生2人というチームで調査をおこないました。他チームも含め、本プログラムを通じて貴重な経験をさせていただいた講師の方々や学生みなさんに深く感謝いたします。